

第4学年1組 外国語活動学習指導案

令和2年10月22日(木) 5校時

指導者 T1 HRT 河原 史博

T2 AET 村上実佳子

場所 体育館

1 単元名 アルファベットクイズをしよう (Let's Try! 2 Unit 6 Alphabet)

2 単元の目標

友達や先生とアルファベットクイズをして楽しむために、相手に伝わるように工夫しながら、アルファベットの小文字について尋ねたり答えたりして伝え合う。

(聞くことウ) (話すこと:やり取りイ)

※本単元における「聞くこと」については、目標に向けて指導は行うが、記録に残す評価は行わない。

3 単元の評価規準

| | 知識及び技能 | 思考, 判断, 表現力等 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|----------------|---------------------------------------|---|--|
| 話すこと (やり取り) | アルファベットクイズをして、活字体の小文字とその読み方に慣れ親しんでいる。 | 友達や先生とアルファベットクイズをして楽しむために、相手に伝わるように工夫しながら、アルファベットの小文字について尋ねたり答えたりして伝え合っている。 | 友達や先生とアルファベットクイズをして楽しむために、相手に伝わるように工夫しながら、アルファベットの小文字について尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。 |

4 基盤

(1) 児童の実態

<個人情報保護のため省略>

(2) 教材について

本単元は、「アルファベットの小文字」が位置付けられており、身の回りにあるアルファベットの文字クイズを出したり、答えたりする内容を扱う。

三年生では、アルファベットの大文字に出会っており、その際には、町に隠された大文字を探したり、自分の名前のイニシャルの大文字を紹介したりして、大文字を題材にした活動を経験している。四年生では、そのような経験を踏まえ、身の回りにある看板や標示から小文字を探したり、大文字と比較して小文字に慣れ親しんだりする。

単元最後には、慣れ親しんだ表現を使って、アルファベットクイズを出したり、クイズに答えたりする中で、目的をもって小文字を見て、その名称を読んだり理解を深めたりするようにする。高学年での「読む・書く」指導に生かせるよう、アルファベットへの理解を十分に図りたい。

(3) 指導に当たって

本単元では、「アルファベットクイズをしよう」という単元ゴールに向かって、児童が見通しをもちながら学習に取り組んだり、段階的に英語表現や語句に慣れ親しんだりできるように指導に当たりたい。単元末の活動は、二人組で考えたアルファベットクイズを友達や研究授業の参会者に出題し、慣れ親しんだ表現を生かすとともに、相手に伝わるように工夫しながら、コミュニケーションを楽しむ活動である。身近な友達だけでなく、初めて出会う先生方とのやり取りを通し、英語を使って尋ねたり答えたりできた成功体験を積むことで、外国語活動やコミュニケーションへの興味・関心・意欲を高め、児童一人一人の主体性が育まれることを期待している。

第一時は、教材との出会いの場である。まずは、身の回りにあるアルファベットを用いた看板や標示を探したり、紹介したりする。出雲市内に実際にある看板や標示の写真を紹介することで、身の回りにはアルファベットが多く使われていることを、実感できるように配慮する。続けて、それらを用いた「アルファベットクイズ」をHRTとAETで行い、単元全体への見通しや期待感をもたせたい。第一時では、本単元を通して扱う活字体の小文字とその読み方が十分に理解できるよう、アルファベット探しや並べっこゲームなどインプット中心のゲームをする。聞いたり、発音したりする活動やチャンツをくり返し行い、児童がじっくりと英語表現や語句に慣れ親しんでいけるようにしたい。

第二時は、アウトプット中心のゲームを通して、小文字の名称や読み方への理解を十分に図る。そして終末には、アルファベットクイズの話型表を提示し、クイズ作りに取り掛かる。身の回りで見つけたアルファベットをもとにクイズを決めたり、考えたりするなど試行錯誤を繰り返し、アルファベットへの理解を深めたり、活動に対する見通しをもったりできるようにしたい。

第三時では、前時に作成したアルファベットクイズを用いて、友達とやり取りを行う。活動に入る前に、デモンストレーションを行い、聞き手の理解の状況を確認しながら話したり、相手の発話に反応しながら進めたりすることなど、コミュニケーションを図るうえでの配慮事項について確認しておきたい。ペアで練習、HRTとAETに出題、グループの友達に出題という流れで発話や、やり取りに少しずつ自信がもてるよう活動場面を設定する。

第四時（本時）には、多数の先生方が授業に参会される。その機会を生かし、やり取りを主な活動に設定した。

本時のめあては、「相手に伝わるように、アルファベットクイズを出したり答えたりしよう！」と設定する。めあての「相手に伝わるように」の文言に注目し、クイズを出す際に気を付けたいことを話し合う。本時では、クイズを出したり、答えたりという活動の趣旨から「Clear voice」と「Eye contact」というキーワードに焦点を絞り、めあてを達成するうえでの具体的な姿を子どもたちと共有する。

参会された先生方とのやり取りについて、シチュエーションから考えれば、自己紹介から始めるのが理想的であるが、苦手意識が強い児童の負担感を和らげるためにも、本時ではアルファベットクイズだけに表現を絞って、活動を設定したいと考えた。また、上記したようにやり取りへの苦手意識をもつ児童が多いため、ペアでの言語活動とすることで、自信がもてない児童が、友達の協力を側で受けながら、参加できるように配慮した。活動は、クイズカードを持ちながら行うが、その裏にビンゴ枠を設ける。ビンゴ枠には、男子枠・女子枠を意図的に設定しておくことで、男女間で偏りなく活動できるようにする。そして、アルファベットクイズを用いて他者とのやり取りを楽しむだけでなく、ビンゴをそろえたいという目的ももちながら、活動を楽しませたい。

やり取りについては、児童が少しずつ場の雰囲気慣れたり、自信をもって活動に取り組んだりできるように、同じ活動を前後半に分けて2回取り組むこととする。途中で、中間評価を行い、めあての「Clear voice」「Eye contact」を意識して活動できているか確認するとともに、友達のがよかったところや自分が困ったことがなかったかを発表し合う。その中で、「Reaction」への意識づけを図り、後半の活動に向けてコミュニケーションの質をさらに高められるように助言する。この授業を通し、英語を用いて相手と通じ合う喜びを体感し、主体的にコミュニケーションを図る素地を育てていけるようにしたい。

5 単元の指導と評価の計画（4時間）

| 時 | 目標◆ 活動・ | 評価 | | | |
|---|--|--------|-------------|--------|------------|
| | | 知 技 | 思 判 表 | 態 度 | 評価規準〈評価方法〉 |
| 1 | ◆身の回りにはアルファベットの文字で表されているものがあることに気付くとともに、活字体の小文字の読み方に慣れ親しむ。 | | | | |
| | ・アルファベットクイズ(指導者) | | | | |

| | | | |
|--|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットの小文字とその読み方の確認 ・ポインティングゲーム ・並べっこゲーム ・p23 「Let' s Chant」 | | | <p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導は行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p> |
| <p>2 ◆活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p23 「Let' s Chant」 ・ペルマニズムゲーム (神経衰弱) ・アルファベットクイズ (指導者) ・p24 「Let' s Listen」 ・アルファベットクイズづくり | | | <p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導は行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p> |
| <p>3 ◆アルファベットクイズをして活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p23 「Let' s Chant」 ・アルファベットクイズづくり ・アルファベットクイズ① (指導者と) ・アルファベットクイズ② (グループで) <p>【授業ゴールの姿】</p> <p><u>I have "a". I have "o".</u> What's this ? That's right. / Sorry.</p> | や | | <p>【話すこと（やり取り）の記録に残す評価】</p> <p>【評価規準】</p> <p>◎活字体の小文字とその読み方に慣れ親しんでいる。 【知識・技能】</p> <p>【顕著な学習状況の見取り】</p> <p>【知識・理解にチェック】</p> <p>クイズに出題している小文字についてよく理解して使っていた。</p> |
| <p>4 ◆友達や先生とアルファベットクイズをして楽しむために、相手に伝わるように工夫しながら、アルファベットの小文字について尋ねたり答えたりして伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあての確認 ・ペア練習 ・アルファベットクイズ (友達とのやり取り) ・中間評価 ・アルファベットクイズ (先生方とのやり取り) | や | や | <p>【話すこと（やり取り）の記録に残す評価】</p> <p>【評価規準】</p> <p>◎友達や先生とアルファベットクイズをして楽しむために、相手に伝わるように工夫しながら、アルファベットの小文字について尋ねたり答えたりして伝え合っている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎友達や先生とアルファベットクイズをして楽しむために、相手に伝わるように工夫しながら、アルファベットの小文字について尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】</p> |

| | | |
|---|--|---|
| <p>【単元ゴールの姿】</p> <p>【児童A】 <u>I have "a".</u> What's this? （下線部をはっきりと聞こえる声で）</p> | | <p>【顕著な学習状況の見取り】</p> <p>【思考・判断・表現にチェック】 【主体的に学習に取り組む態度にチェック】 アルファベットクイズを出す時、相手に伝わるようにはっきり聞こえる声で伝えていた。</p> |
| <p>【児童B】 <u>I have "a". I have "o".</u> What's this? （下線部を言うとき、相手を見ながら）</p> | | <p>【思考・判断・表現にチェック】 【主体的に学習に取り組む態度にチェック】 アルファベットクイズを出す時、問題がよく伝わるように相手の方を見て伝えていた。</p> |
| <p>【児童C】 <u>It's "yellow hat".</u> <u>Hint, please.</u> <u>It's "mcdonald's".</u> （下線部を言うとき、相手を見ながら、聞こえる声で）</p> | | <p>【思考・判断・表現にチェック】 【主体的に学習に取り組む態度にチェック】 アルファベットクイズに答える時、出題者によく伝わるように、大きな声ではっきりと伝えていた。</p> |
| <p>【児童D】 S1: I have "a". I have "o". S2: はっきり聞こえない声で S1: <u>One more time, please.</u> （下線部を言うとき、相手の反応を見ながら適切に対応）</p> | | <p>【思考・判断・表現にチェック】 【主体的に学習に取り組む態度にチェック】 アルファベットクイズの答えを相手が言った時、聞き取れなかったので「One more time, please.」と適切にリアクションを返していた。</p> |
| <p>【児童E】 S1: I have "a". I have "o". What's this? S2: It's "mcdonald's". S1: That's right. <u>Wonderful!</u> （相手の反応を見ながら適切に対応）</p> | | <p>【思考・判断・表現にチェック】 【主体的に学習に取り組む態度にチェック】 アルファベットクイズで難しい問題に相手が答えた時、思わず「Wonderful! (素晴らしい)」と適切にリアクションを返していた。</p> |
| <p>【児童F】 I・・・えーっと・・・ <u>I have "a". I have "o".</u> <u>What's this?</u> （友達の助けを得て出題）</p> | | <p>【主体的に学習に取り組む態度にチェック】 アルファベットクイズを出す時に、友達に聞きながら最後まであきらめずに伝えようとしていた。</p> |

6 本時の学習

(1) ねらい

友達や先生とアルファベットクイズをして楽しむために、相手に伝わるように工夫しながら、アルファベットの小文字について尋ねたり答えたりして伝え合う。

(2) 展開

| 時間 | 学習活動 | 教師の支援 (○) と評価 (☆) | |
|----|---|---|---|
| | | HRT | AET |
| 1 | 1 あいさつをする。 | | ○天気, 曜日, 月など様々な質問を交えあいさつを行うことで, 既習表現への慣れ親しみを図る。 |
| 5 | <p>2 本時の流れとめあての確認 めあて</p> <p>相手に伝わるように, アルファベットクイズを出したり, 答えたりしよう!</p> <p>・「相手に伝わるように」の具体的な姿について考える。</p> <p>【引き出したいキーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Clear voice ・ Eye contact | <p>○「相手に伝わるように」するためには, どのようなことに気を付けたらよいか話し合い, キーワードを掲げること, 具体的な姿について共有できるようにする。(様々な意見の中から, クイズという活動目的を鑑み, 具体的な姿を焦点化する。)</p> | |
| | | | ○相手に伝わるように (「Clear voice」「Eye contact」を意識してデモンストレーションをすることで, めあての具体的な姿を理解できるようにする。) |
| 3 | 3 HRTとAETのデモンストレーションを見る。 | <p>デモンストレーション</p> <p>HRT: Hello, I'm Fumihiro.</p> <p>AET: Hello, I'm Miyumi.</p> <p>HRT: Quiz time! I have " a ". I have " o ".</p> <p>What's this?</p> <p>AET: . . . Hint, please.</p> <p>HRT: I have 9 letters.</p> <p>AET: It's "yellow hat".</p> <p>HRT: Sorry.</p> <p>AET: Hint, please.</p> <p>HRT: I have " m ".</p> <p>AET: It's " mcdonald's ".</p> <p>HRT: That's right!</p> | |

| | | | |
|--------|---|--|--|
| 5 | <p>4 ペア練習</p> <p>隣席のペア同士で、相手に伝わるように意識してアルファベットクイズを出す練習をする。</p> | | <p>(ペアでジャンケンをし、勝ちペアからクイズを出す。)</p> <p>S1 : Hello, I'm Fumihiro.</p> <p>S2 : Hello, I'm Miyumi.</p> <p>S1S2 : Quiz time!</p> <p>S1 : I have " a ".</p> <p>S2 : I have " o ". What's this?</p> <p>S34 : Hint, please.</p> <p>S1 : I have 9 letters.</p> <p>S3S4 : It's "yellow hat".</p> <p>S1S2 : Sorry.</p> <p>S3S4 : Hint, please.</p> <p>S2 : I have "m".</p> <p>S34 : It's " mcdonald's ".</p> <p>S1S2 : That's right!</p> |
| 1 0 | <p>5 学級の友達とのやり取り</p> <p>友達とアルファベットクイズ</p> <p>①自己のめあてを確認する。</p> <p>②相手に伝わるように意識してアルファベットクイズを出したり答えたりする。</p> | <p>○ビンゴゲームを併せることで、男女関係なく活動できるように促す。</p> | <p>○「Clear voice」, 「Eye contact」を意識して活動できた児童を称賛する。困っている児童の側と一緒に発音をしたり、助言をしたりする。</p> |
| 5 | <p>6 中間評価</p> <p>①自己のめあてについての自己評価をする。</p> <p>②「Clear voice」, 「Eye contact」を意識していた児童を紹介する。</p> <p>③活動をふり返る。</p> <p>④先生方とのアルファベットクイズに向けてのめあてをもつ。</p> <p>「Clear voice」, 「Eye contact」 + 「Reaction」</p> | <p>○活動をふり返って、「友達の良かったところ」や「自分が困ったこと」がなかったか発表する中で、「Reaction」の大切さに目を向けさせ、後半の活動への意識付けを図る。</p> | <p>○「Clear voice」, 「Eye contact」を意識して活動できた児童を称賛する。</p> |
| 1 0 | <p>7 先生方とのやり取り</p> <p>先生方とアルファベットクイズ</p> <p>・めあてを意識しながら、先生方とやり取りをする。</p> | | <p>○困っている児童に寄り添い一緒に発音したり、助言したりする。また、めあてを意識してやり取りができていない児童を称賛する。</p> <p>☆友達や先生とアルファベットクイズをして楽しむために、相手に伝わるように工夫しながらアルファベットの小文字について尋ねたり答えたりして伝え合っている。</p> <p>〈思考・判断・表現〉【行動観察・振り返りカード】</p> |

| | | |
|---|--|--|
| | | <p>☆友達や先生とアルファベットクイズをして楽しむために、相手に伝わるように工夫しながら、アルファベットの小文字について尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。〈主体的に学習に取り組む態度〉</p> <p style="text-align: right;">【行動観察・振り返りカード】</p> |
| 3 | <p>8 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手によく伝わるように考えてクイズを出すことができて楽しかった。 ・アイコンタクトをしながらクイズを出すと、相手によく伝わることがわかった。 ・相手のことを考えて、「Reaction」することも大切だと分かった。 | <p>○本時のめあてをふり返り、良かった姿や頑張っていた姿をしっかりと褒め、次時への励みとなるようにする。</p> |
| | 9 あいさつをする。 | |

(3) 本時の評価と支援

| | 十分満足できる児童の姿 | おおむね満足できる児童の姿 | 支援を必要とする児童への手立て |
|-------|---|---|--------------------------------|
| 思・判・表 | 相手に伝わるように、「Clear voice」や「Eye contact」を意識したり、適切な「Reaction」を返したりして、アルファベットクイズを出したり答えたりしている。 | 相手に伝わるように、「Clear voice」や「Eye contact」を意識して、アルファベットクイズを出したり答えたりしている。 | 声の大きさや話す速さなど児童の様子を確認し、自信をもたせる。 |
| 態度 | 相手に伝わるように、「Clear voice」や「Eye contact」を意識したり、適切な「Reaction」を返したりして、アルファベットクイズを出したり答えたりしようとしている。 | 相手に伝わるように、「Clear voice」や「Eye contact」を意識して、アルファベットクイズを出したり答えたりしようとしている。 | 間違っても気にせず、最後まで諦めずに取り組むよう助言する。 |

7 授業の視点

- ・単元ゴールの姿をイメージしたり、中間評価場面を設けたりしたことは、指導と評価の一体化を図るために有効であったか。
- ・相手意識を持たせるうえで、アルファベットクイズは有効であったか。